

テーマ：新しい現実とマネジメント

■**コロナ自粛による経済活動/企業業績の悪化とマネジメント**

コロナ自粛により日本経済は冷え込んでおり、日本の実質 GDP 成長率は、2021 年 7 月～9 月で前年比マイナス 0.8%、年率換算でも 3%の**マイナス成長**となっており、**経済の回復の兆しが見えない状況**である。今後、企業の倒産増加やリストラを行う企業が増加することが危惧され、この様な不確実性のある環境のもと、**企業が生き延びるために**、以下 4 点に留意して、マネジメントを実践していくことが重要と考える。

① **資源を機会に集中すること**

ドラッカーは、「**成果をあげるための秘訣を一つだけ挙げるならば、それは集中である。成果をあげる人は最も重要なことから始め、しかも一度に一つのことしかしない**」(『経営者の条件』第 5 章,p138) と述べている。コロナ過ビジネスにおいて、真に重要なものを見極めて、自らのエネルギー、時間、人材を重要なことに集中することが大切である。

② **資源の生産性を上げること**

ドラッカーは、「**経営資源を手に入れることは第一歩にすぎない。それらの経営資源を生産的なものにすることが課題である**。したがってあらゆる企業が、人材、資金、物的資源という三つの経営資源について生産性の目標を設定する必要がある」(『マネジメント(上)』第 8 章,p145) と述べている。コロナ過で資金調達が厳しくなり、資金の生産性も大事であるが、資源のうち最も高価な時間の生産性を高めることが重要である。弊社も 2020 年 4 月よりリモートワークにシフトし、現在も約 80%のリモートワークを推進しており、以前に比べて無駄な作業が削減でき、定量的にも生産性が高まった。

③ **成長をマネジメントすること**

ドラッカーは、「**マネジメントたる者は、成長の最適点について検討しておかなければならない。リスクと成果のバランスを考えなければならない**」(『マネジメント(下)』第 60 章,p253) と述べている。自らの市場が成長する市場か否かを見定め、組織を変化させながら、利益を確保するために成長をマネジメントする。あらゆるサービス、あらゆる活動、あらゆる事業について、健全な成長か否かの点検が必要である。

④ **人の育成に注力すること**

ドラッカーは、「**人間社会において唯一確実なものは変化である。自らを変革できない組織は明日の変化に生き残ることはできない。貢献に焦点を合わせるといことは人材を育成するということである**」(『経営者の条件』第 3 章,p83) と述べている。成果をあげるために、必要とされる知識が高度化・専門化しており、それに対応できる人材育成に注力することが必要である。

以上